

全国鳥類繁殖分布調査

ニュースレター 第9号

2017年8月4日



タマシギ(三ツ井政夫)

調査結果の送付 お願いします

繁殖期が終わり、調査データが続々と集まっています。去年の調査実施コースは約500コース。今年は7月20日時点で届いているデータだけでも430コースを超えています。おそらく去年を大幅に上回るコースで調査が実施されているのではないかと思います。まだ調査結果をお送りいただけていない方は、忘れずに、調査結果をお送りください。

送付はこちらのページから <http://www.bird-atlas.jp/mpmailec/form.cgi>

グループによる傾向は変わらず

昨年のニュースレター第6号では、現地調査データのうち、コース変更が軽微(変更なしか、0-24%変更)な調査地のデータを使って、前回(1990年代)と今回の鳥の変化を示しました。その結果、外来鳥と大型の魚食性の鳥の分布が広がっており、反対に小型の魚食性の鳥の分布が縮小している可能性があることを報告しました。そして夏鳥も分布が拡大しており、一時減少していた夏鳥に復活の兆しがあることもわかりました。

まだデータの少ない時点での結果だったので、やや自信がなかったのですが、今年調査されたコースのデータを加えても、その傾向に変わりはありませんでした。まだ、今年のデータは整理中で、届いたデータの一部しか解析に加えることができていませんが、すべてのデータの整理が完了したら、その傾向が全国一律の傾向なのか、それとも地域によって異なっているのかなどを明らかにしていきたいと思えます。

試みに、復活傾向にあると思われるサンコウチョウとアカショウビンについて見てみました。サンコウチョウは、中国地方と九州地方で新規出現の割合が高かったのですが(図1)、四国は逆に少なく、南の方でより分布が

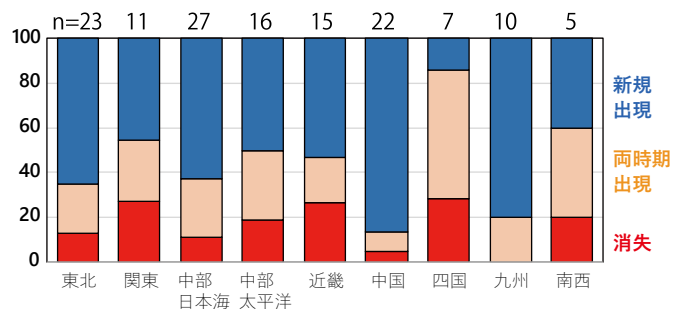


図1 サンコウチョウの地域別の出現状況。消失:1990年代に記録されていて、今回記録できなかったコース。新規出現:1990年代に記録されず、今回記録できたコース。

拡大しているとまでは言えなさそうです。アカショウビンは逆に北で分布拡大の傾向が大きそうでしたが、まだまだデータ数が少なく明確ではありませんでした。もう少しデータをためつつ、この辺りを明らかにしていきたいと思えます。

いくつかのマスコミで報道

繁殖分布調査の活動や結果をいろいろな人に知っていただきたいと思い、今年はマスコミで掲載してもらえるように、情報発信もしました。

7月1日にNHKラジオの「マイあさラジオ」で取り上げられたほか、毎日新聞、東京新聞、北海道新聞、南海タ



分布が拡大しているソウシチョウ(谷岡 仁), 縮小しているカイツブリ(高木昌興), 復活している可能性のあるサンコウチョウ(所崎 聡)とアカショウビン(畔上正一)

イムスでも取り上げられました。こちらでも引き続き広報活動に取り組んでいきますが、知り合いの記者さんなどいらっしやいましたら、皆さん方でも広報いただけたら幸いです。



自然保護助成基金, サントリー等からの助成

今年度は、サントリー世界愛鳥基金と自然保護助成基金、バードリサーチ調査研究支援プロジェクトからの助成、篤志家からの大口のご寄付をいただき、活動を進めています。皆さんの交通費や説明会などの旅費、学生さんのレンタカー補助などに使わせていただいています。ご支援ありがとうございます。

調査実施・登録の進んでいない地域

これまでの調査結果から、外来鳥の分布拡大が続いていることや夏鳥が復活している可能性が見えてきました。これから調査が進んでいくにつれて、さらに多くのことがわかってくると思います。そのためにはできるだけ多くのコース、それも全国満遍なく調査が行なわれる必要があります。しかし、調査の進行状況には地域によって大きな差があります。香川県のように、すでに全コースで調査が行なわれた県もありますし、全コースの責任者

表1 調査地登録率(責任者の決まっているコースの割合)の低い都道府県と調査実施率(調査の終わったコース)割合の低い都道府県

都道府県	登録率	都道府県	調査実施率
佐賀県	13.3	佐賀県	6.7
高知県	30.4	沖縄県	7.8
岩手県	36.9	鹿児島県	9.2
鹿児島県	43.4	群馬県	17.5
沖縄県	47.1	岩手県	19.0
福島県	49.3	宮崎県	20.9
群馬県	52.5	島根県	21.1
島根県	52.6	高知県	21.7
福岡県	59.0	北海道	28.5
北海道	59.8	京都府	28.6

が決まっている県も11県あります。反面、責任者決定率、実施率ともに低い県もあります。登録率と調査実施率の低い10都道府県を表1に示しました。これらの道府県では、この繁殖分布調査が行なわれていることすら伝わっていない可能性があります。お知り合いの方などに、こんな調査がされていること、広報いただけたら助かります。よろしくお願いいたします。

日本鳥学会大会で成果を発表

9月15-18日に筑波大学で日本鳥学会大会が開催されます。この大会で全国鳥類繁殖分布調査の成果および東京都繁殖分布調査の成果について発表する予定です。

- 植田睦之・葉山政治・荒哲平・佐藤望 「小型魚食鳥類は減少、夏鳥は復活? 全国鳥類繁殖分布のこれまでの成果」
- 佐藤望・望月英夫・北村亘・藤田薫・川内博・山本裕・森由香・上田恵介・葉山雅広・植田睦之 「東京島嶼の鳥類繁殖分布調査」

大会参加予定の方はぜひ聞きに来てください。
詳細はこちらから <http://osj2017.ornithology.jp/>

【植田睦之 バードリサーチ/葉山政治 日本野鳥の会】

東京都鳥類繁殖分布調査 スタート

今年から東京都鳥類繁殖分布調査が始まりました。その調査結果から、ホンセイインコの増加やカワラヒワの減少、スズメの増減の地域による差などが見えてきています。伊豆・小笠原諸島の調査からは種による分布の違いも見えてきています。



カワラヒワ(高橋ゆう)

たくさんの団体の共同調査

東京都鳥類繁殖分布調査は「全国鳥類繁殖分布調査」の詳細調査としてスタートしました。「全国」が20kmメッシュで調査しているのに対し、こちらは1kmメッシュ。詳細な調査を実施します。18団体の共同調査として、2020年までに東京都の1kmメッシュを網羅的に調査することを目指します。

ニュースレター第7号でも紹介しましたが、この調査は1970年代、1990年代に東京都により行なわれた調査と同じ方法で実施されます。それら過去の結果と比べることで、鳥たちの分布や個体数の変化を知ることができます。まだ今回の調査は始まったばかりですが、すでに421ものメッシュで調査が行なわれ、うち95メッシュは前回は現地調査が実施された場所です。この95メッシュの結果をもとに鳥たちの変化を見てみましょう。

分布が広がった外来鳥やメジロ、狭まったカワラヒワ

各メッシュの記録の有無をもとに分布の変化を見ると、分布が広がった種にはホンセイインコやガビチョウがあげられます。同じ外来鳥でもコジュケイは13メッシュから8メッシュになっており、分布が狭まっている可能性があります。

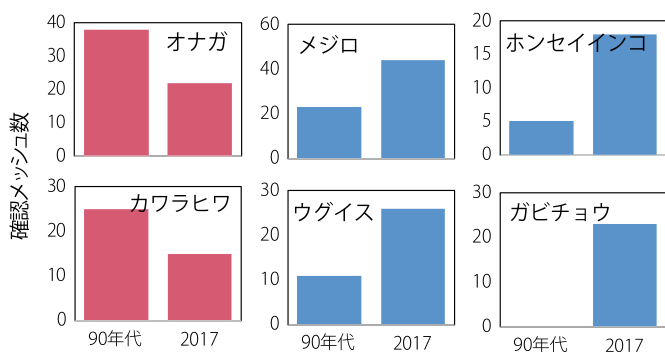


図1 1990年代と今回の記録メッシュ数の変化

メジロとウグイスは分布が拡大傾向にありました。メジロは1970年代から1990年代にかけても分布が広がっており、その分布拡大がさらに都心部へと広がっているようです。街路樹などの生長により生息できる場所が広がったのだと思います。ウグイスは山間部ではシカがササを食べつくしてしまうことで減少していると言われていますが、低地では分布を上げているようです。公園などの林が生長して、一部に藪ができていることが影響を与えているのでしょうか。

逆に分布が狭まった鳥にはカワラヒワがいました。東京郊外や河川沿いではまだまだ普通に見られる鳥ですが、都市部では確認できなくなっている場所がありました。オナガも同様に減少傾向にありました。

まだ調査メッシュ数が少なく、増減の判定が難しい種が多いので、今後、さらにデータを収集し、どのような種が、どのような場所で分布が変化しているのかを明らかにしていきたいと思います。

個体数が増えたムクドリと郊外部で減っているスズメ

東京都繁殖分布調査は、「全国」とは少し調査方法が違い、調査距離も約1kmと短く、また、繁殖期の間調査を2回行なっていて個体数についてもより信頼性の高いデータがとれています。そこで、個体数について、5羽以上の増減のあるメッシュについて見てみました。

増加しているメッシュが多かったのがムクドリです。38メッシュで5羽以上個体数が増加していました。

スズメについては、増加したメッシュが24、減少したメッシュが46と場所により様々でした。この増減を地図に落してみると(図2)、郊外部では減少しているメッシュが多く、都心部では増加しているメッシュが多いようです。その原因はよくわかりません。いままで採食場所の



分布が拡大しているガビチョウ(小山正人), ウグイス(大井智弘), そして不思議な分布をしているヒヨドリ(満田信也)



図2 地域によるスズメの個体数の増減の違い。●5羽以上減少したメッシュ、●変化の小さいメッシュ、●5羽以上増加したメッシュ。都心部は増加した青い丸が多く、郊外は減少した赤い丸が多い

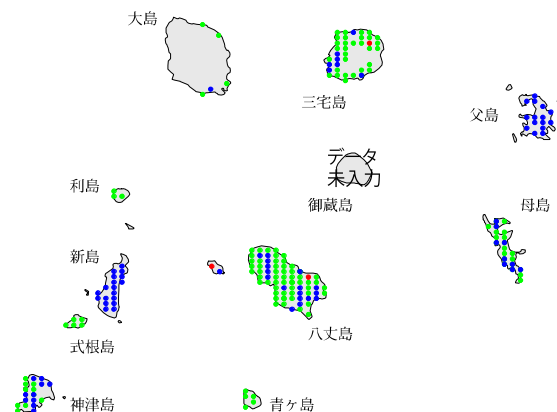


図3 ヒヨドリの分布図。●繁殖を確認、●繁殖の可能性あり、●生息を確認

乏しかった都心部の街路樹の生長などで採食環境が良くなったのでしょうか？ データを蓄積して、環境との関係を見ていくことで、原因を探索していきたいと思えます。

伊豆・小笠原諸島の鳥の分布

これまでの東京都繁殖分布調査は本土部だけで行なわれてきましたが、プロ・ナトゥーラ・ファンダから助成をいただけたので、今回は伊豆・小笠原諸島の有人島の調査も行ないました。2年間かけて調査する予定だったのですが、なんと総勢49人の協力を得ることができたので、今年で、ほぼ全域の情報収集をすることができました。

まだ全データの入力が済んでおらず、詳細は、次号でご報告できたら、と思いますが、いくつか興味深いことがわかってきています。1つは鳥の種による分布の違いです。島の面積や環境、本土からの距離などにより決まってくるのだと思いますが、普通種、固有種ともに興味深い分布パターンが見られています。たとえばヒヨドリは全島で記録され、個体数も多いのですが、なぜか本

土に一番近く、面積も広い大島では極めて少ないのです(図3)。日本鳥類目録を見ても、日本全国の島に生息しているようで、なぜ大島にいないのか不思議です。ヒヨドリのいない(あるいは少ない)島の共通点を探ればその原因がわかるような気がするので、全国どこの島でも良いので、もし「この島、ヒヨドリほとんどいないよ」などといった情報お持ちでしたら、ぜひ事務局までお知らせください。

また、地理的分布以外に火山の島ならではの、噴火の歴史と関係していると思われる鳥の分布パターンも見られました。たとえば八丈島は島の北西側に八丈富士、南東側に三原山という2つの山があります。三原山は古い火山ですが、八丈富士は新しい火山で、2つの山は噴火の歴史が違うのです。そして、わずか数kmしか離れていないにもかかわらず、鳥類相が大きく異なっているのです。

詳細は、全データが揃った次号でご紹介したいと思いますので、ご期待ください。

【植田睦之・佐藤望 バードリサーチ】

全国鳥類繁殖分布調査での ICレコーダー活用

調査において、さえずりの聞き取りは観察者の力量に追うところが大きい。それを補うためにICレコーダーの利用を試みた。その結果、不明種を確認することができるなど、調査の信頼性向上のために有用な方法であることがわかった。



オオヨシキリ(橋本和司)

全国鳥類繁殖分布調査では、目視や耳でさえずりなどを確認することで鳥を記録するが、とくにさえずりに関しては観察者の力量に負うところが大きい。瞬間だけさえずる場合もまもあり、その証拠を残し、再検証できるようにする必要性を常々感じていた。

先年の夜間鳥類活一実地調査でICレコーダーによる自動録音調査に参加した経験から、ICレコーダーを使ってそれを実現できると考え、パナソニック RR-XS460を使って現地調査の結果を検証した。

レコーダーの設置方法

ICレコーダーの設置方法と位置は、写真のようにザックの天面とし、レコーダーのマイク部が外界と遮断されない携帯ケースを流用した。



録音した音源を聞くと、この位置でも自分の足音が聞こえる。現場でも調査中は足音は聞こえているが、鳥のさえずりに集中していて気にならないだけなので、録音を聞く場合も鳥のさえずりに集中すれば、それは問題にならなかった。

確認した鳥を調査用紙に記録する際に、小さな声で「オオルリ」などとささやき音を入れたことで、あとあと調査用紙と音源の照合も楽になった。

ICレコーダーで調査結果の検証が可能

現地では調査開始と同時に録音をスタートし、調査用紙に記載した鳥と音源との一致解析をした。

感度に関しては、現地で聞こえたさえずりは、どんなに小さくても録音されており、問題なかった。

帰宅後、調査用紙を見ながら録音を聞くと、秒単位で記載に間違いがないかを検証できた。また、現場では種が同定できなかったさえずりを、何度も再生することで鳥種を同定できたり、一つのさえずりの裏に隠れている別の種の鳥を確認できたりした。特に近距離で大きな声で鳥がさえずっている場合、そのさえずりに隠されて遠距離の小さな声のさえずりを現場では聞き落としやすいことも実感できた。

現地で不明鳥がいた場合でも、録音していると安心感がある。調査に参加していないメンバーなどに録音データを渡して識別してもらうことができるし、第三者に対して必要に応じて鳥の存在を証明することもできる。レポートの信頼性が格段に向上するのでこの調査方法はお勧めだ。

【斉藤 誠】

全国鳥類繁殖分布調査ニュースレター 第9号

2017年8月4日 発行

編集:植田睦之, 大島理恵, 大嶽若緒, 柏崎安男, 小峯昇, 佐武好美, 佐藤望, 藤田薫, 八次雄一郎

© バードリサーチ・日本野鳥の会・日本自然保護協会・日本鳥類標識協会・山階鳥類研究所・

環境省生物多様性センター

URL <http://www.bird-atlas.jp> <https://www.facebook.com/birdatlasjp> https://twitter.com/bird_atlasjp